

文：高瀬徹朗 *Takase Tetsuro*

本誌放送アナリスト・ワンセグウォッチャー

自らの出身大学が出演しない「箱根駅伝」が、これほど興味を失うコンテンツであるとは思わなかった。単純にスポーツショーと割り切れれば、某大学「山の神」ラストランなど見どころは多かったはず。だが2日間、早起きしてまでチャンネルを合わせる気力はついに起こらなかった。国名を冠しているくせに外国人留学生ランナーまで入れているのだから、来年こそは頼むぞ、我が母校よ。その当て付けというわけではありませんが、今回は「もうひとつの駅伝」を選びました。それではチェック、スタート。

こちらも新春恒例

# TBS『ニューイヤー駅伝』をチェック

## 洒落たデータ放送

TBSの元旦恒例「第56回全日本実業団駅伝 ニューイヤー駅伝 2012」。近年は箱根駅伝の大人気もあって各チーム選手たちの知名度も上がり、視聴者ごとに応援するチームが出てきているとか、いないとか。そんなこともあってか、なかなか「洒落た」データ放送が付加されている。

固定トップ画面、まずは下部のアニメーションに目がいく。首位チームの位置が一目でわかる、とは言い過ぎだが、イメージはつかみやすい。首位チームが交代すると、表示されるチーム名も自動で変更される。

トップメニューは青「プレゼント応募」、赤「乱-RUN-入る」、緑「メニューを開く」の3つ。とりあえず緑を選ぶと、大会に関するさまざまな情報が詰まったメニュー選択画面に移る。

内容は「総額100万円クイズ」(本線で展開していた企画)「チーム紹介」「コース紹介」「歴代優勝」「総合順位」「順位変動」「区間順位」「天気・ニュース」と、駅伝に必要な情報をフルラインナップ。それぞれの情報量はそれなりに多く、確認したい情報を確認するには十分なボリュームだ。

青ボタン「プレゼント応募」を選択すると、データ放送限定のクイズ画面が起動。だがクイズがすぐにスタートするわけではなく、まずは一定時間視聴して画面右のメーターを最大までためる必要がある【写真①】。

これをフルにためると、ようやくクイズスタート。問題に正解すると「駅伝ポイント」が入り、これが1万点に到達するとプレゼントに応募できるらしい。1問答えた段階でのポイントが700～500ポイント(3択問題、何回目で正解したかによって変動)なので、一見のハードルが高い。

とはいえ視聴メーターは自然に見ていても約

4～5分でいっぱいになる上、ある時点からたまる速度がアップできる「加速」ボタンが表示されることも。連打するとあっという間にいっぱいにできる。さらには3度目で正解しても500点が入るということで、意外と簡単にポイントを獲得できる。実際、視聴開始から90分

程度で1万点に到達した。

赤ボタン「乱-RUN-入る」を選択すると、まずはペース設定画面で1500メートルおよびフルマラソン、50メートル走のタイム入力画面へ。それぞれを入力すると、下部のアニメーション画面に「もし自分が走っていたら」という場合の位置が表示されるようになる。なお、3項目を入力せずに直接ペースを入力することも可能。

その他、視聴を続けていると折画面下部にデータ放送メニューの更新情報、または競技中選手の簡単なプロフィールなどがポップアップ表示されることがある。更新情報では「順位変動が更新されました。緑ボタンで確認してください」という誘導付き。クイズの視聴メーターにも言えることだが、画面更新において放送ならではのダイナミックな展開を使っている印象だ。

## ほどよく練られたデザインとメニュー構成

全体を通じて、まずデザインの良さは目を引く。トップ画面下部のアニメーション、視聴メーター、クイズ回答画面でボタンを3つ配置する形など、それぞれディティールにこだわった秀逸なデザインと言えるだろう。

視聴メーター加速ボタンや「乱-RUN-入」などのギミック系も面白い。とかく単調なシーンの続きがちなロードレース中継において悪くない取り組みとも言える。ややもすると企画を詰め込み過ぎという印象を受けなくもないが、年に一度の放送、そのチャレンジング精神の方を買っておきたい。

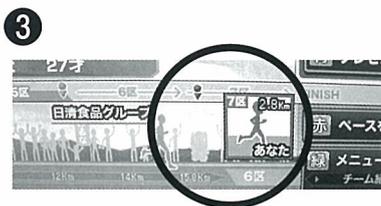
唯一難点を指摘するのであれば、ワンセグ連動がなかったこと。沿道応援のケースも含め、ロードレースとの相性は悪くないだけに残念だ。ここだけを来年への課題としつつ、2012年TBSデータ放送の更なる発展に期待する。 



① 視聴メーター。自動でたまるほか、時折ボタン連打でためることも可能



② データ放送のクイズ。ボタン配置のデザインが秀逸



③ 「乱-RUN-入」に参加すると、自身の入力したペースに合わせた現在位置を表示。適当な数値を入れると、とんでもない位置に表示されてしまう